

—令和6年度—

学校評価報告書

群馬自動車大学校

令和6年7月作成

《群馬自動車大学校 学校評価報告書》

令和6年7月1日

1 教育理念

自動車に関する最新の知識と技術を修得させ、人間性豊かな整備士を養成し自動車関連業界で活躍できる人財を送り出す。

次のような整備士を養成する。

- (1) 知識・技術・人格を身に付けた整備士
- (2) 向上心を持ち技術革新に対応できる整備士
- (3) 各種資格を取得し接客対応できる整備士

2 教育方針

誰からも喜ばれ感謝される魅力ある学校づくりを目指すとともに、社会に貢献できる多くの人財を育成することに挑戦し続ける。

3 重点目標

- (1) 募集定員及び内部進学者の確保
- (2) 就職率の向上
- (3) 資格取得率の向上

4 評価領域・評価項目・達成状況

(適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1)

(1) 教育理念・目標

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| ・教育理念・教育方針・育成人材像は定められているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等が社会の要請に的確に対応できるよう適宜検討・見直しを行っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等を達成するための特色ある取組がなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・育成人材像は関連企業の人材ニーズに適合しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等を関係企業・団体等へ情報発信しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・教育理念等が学生・保護者等に周知されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

①課題

ア. 時代の変化に応じて社会が求める自動車整備士を育成するために教育理念・教育方針・教育目標等の検討・見直しが常に求められている。

イ. 機会あるごとに教育理念・目標等が関係企業・学生・保護者等に理解していただくよう努めているが、十分周知されていない面がある。

②今後の改善方策

ア. 各種会議において適宜、理念・方針・目標等について評価・総括を行い全職員の共通認識に立った議論を進めていく。

- イ. 企業・団体・高校等の訪問、企業説明会等、あらゆる機会を通してより一層確実に伝えていく。
- ウ. 入学前のオープンキャンパス、入学ガイダンス、PTA 総会、個別面談会等での説明、学校案内やスクールガイド等の印刷物の配布、担任による面談等の機会を通して学生・保護者への周知徹底に一層努めていく。
- エ. 学校行事や教育活動、近況、学校評価報告書等をホームページに掲載しており相応の成果を上げている。今後ともさらに紙面等の改善・工夫に努めていく。

③特記事項

- ・なし

(2) 学校運営

・教育理念等を達成するための事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・各分掌間の連携及び意思決定システムが整備されているか	4	③	2	1
・コンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・教職員の確保及び資質向上のための研修等がなされているか	④	3	2	1
・組織的かつ時宜を得た広報活動が行われているか	4	③	2	1
・他校にはない特色化を推進しているか	4	③	2	1
・教育活動全般について外部関係者等による評価を実施し活用しているか	④	3	2	1

①課 題

- ア. 各分掌の業務の明確化のもと相互の連携に努めているが、職員間の共通認識が一部徹底されない面が見られる。
- イ. 各分掌ごとの事業計画は策定されているが、全体としての事業計画との整合性が一部明確化されていない面が見られる。
- ウ. コンプライアンス体制、規定類の整備について組織的な検討が求められている。
- エ. 優秀な教職員確保は学生の教育指導上、極めて重要であり、絶えず企業・同窓会等との情報交換に努めてきているが一層の取組みが求められている。また、教職員が高度技術化に適切に対応できるため企業と連携し研修・講習を行っているが、さらなる資質向上が求められている。

②今後の改善方策

- ア. 日々の打合せ・事務連絡、定例会議等での報告、意見交換の充実を図るとともに文書等の回覧による意思疎通、情報の共有化を図る。また必要に応じて関係者会議を適宜実施する。
- イ. 継続的に企業及び関係団体への職員採用計画の発信及び協力依頼を実施していく。採用に当たっては組織全体の長期的な年齢構成も考慮する。また教職員の資質向上については引き

続き各種研修・講習会への積極的参加に努めていく。

ウ. 各分掌で策定される事業計画は、全体として事業計画との関連性を明確にした上で具体的施策を立案する体制としていく。

エ. 教務部をコンプライアンス担当部署として、コンプライアンス体制及び規定類の整備を進めていく。

③特記事項

・文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ自己評価委員会、学校関係者評価委員会において学校運営全般について評価を行っている（結果をホームページに掲載）。

ア. 自己評価委員会～6月、11月

イ. 学校関係者評価委員会～6月、12月

ウ. 本年6月より企業からの出向教員受入れを試行的に開始した。

(3) 教育活動

・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施がなされているか	4	3	2	1
・教育課程の編成において企業・関係団体等の意見聴取を行っているか	4	3	2	1
・時代の変化に即応した教材の開発、指導方法の改善等がなされているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準が明確になっているか	4	3	2	1
・一人ひとりの個性・能力に応じた学習指導が行われているか	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制、カリキュラムにおける体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・インターンシップ等の実践的な職業教育が体系的に行われているか	4	3	2	1
・あいさつ・礼儀等の社会生活に必要な指導が適切になされているか	4	3	2	1
・企業・大学等と連携した授業が行われているか	4	3	2	1

①課 題

ア. 自動車の電動化、エレクトロニクス化や自動運転技術が急速に進歩するなかで、時代に即した教材の開発や指導法へのICT、生成AI技術の活用が必要となってきた。

イ. 多様化している学生一人ひとりの個性・能力に応じた教材開発や指導体制の強化、指導内容・方法の改善等に努めているが、なお一層の充実が求められている。

②今後の改善方策

ア. 学生の国家資格取得及び教材開発や指導法の改善を図るため、業界団体や企業等の連携を一層進めていく。

イ. これまでJAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）やTCE財団（職業教育・キャリア教育財団）、群馬県自動車整備振興会、群馬県自動車車体整備協同組合、メーカー・ディーラー等が主催する専門技術に関する講習・研修会、指導力向上のための研修会等へ職員を

積極的に参加させてきている。併せて、学生の心情・心理を理解した上で学習意欲を高めるためにカウンセリングの専門家による職員研修も継続的に実施していく。また、教育課程編成委員会での意見等を参考に学生一人ひとりの個性・能力に応じた指導方法や習熟度別学習編成、教材開発等のさらなる改善に努めていく。

③特記事項

・教育課程編成委員会の開催

例年通り7月、2月に開催予定。企業・団体・学識経験者・教職員の10名が委員。

・カリキュラム検討委員会の設置

自動車整備士技能検定規則等の一部改正に伴い、今後「一級の学科試験における口述試験の廃止」及び「二級における“ガソリン”資格、“ジーゼル”資格の統合」等が予定されている。これらを踏まえて適切かつ充実したカリキュラムを編成するため関係職員からなる検討委員会を設置し検討を始める予定。

・インターンシップの実施

一級自動車整備科4年生が約1ヶ月間、就職内定企業等で実施。

・企業等と連携した実習授業・講習会等

- ① ネットトヨタ栃木（株）「一級自動車整備科授業」
- ② 群馬日産自動車（株）「二級自動車整備科授業」
- ③ 損保ジャパン（株）「損害保険募集人講習」（5月）
- ④ 群馬日産自動車（株）「日産セミナー」
- ⑤ （株）関東マツダ「マツダセミナー」（7月）
- ⑥ （一般財団法人）労働安全衛生管理協会「有機溶剤作業主任者技能講習」
- ⑦ スズキ自販群馬（株）等「スズキ技術講習会」
- ⑧ コーンズ・モータース（株）「フェラーリ研修」（2月）
- ⑨ 群馬ダイハツ（株）セミナー（9月）
- ⑩ 関西ペイント（株）「塗装講習（自動車車体整備科）」（5月）
- ⑪ トヨタ自動車北関東サービス分室「実習授業（特殊機構）」（6、7月）

・大学と連携した授業・研修会

- ① 群馬大学副学長（理工学部大学院教授）による「環境」授業（一級自動車整備科）
- ② 産業能率大学総合研究所「ビジネスマナー研修会」（一級自動車整備科）

・教職員研修の実施

- ① （一般社団法人）群馬県自動車整備振興会「整備主任者技術研修」
- ② （株）関東マツダ「マツダセミナー2023」（7月）
- ③ JAMCA 研修（7月）
- ④ 日産研修（8月）
- ⑤ カウンセリング研修（8月）
- ⑥ いすゞ研修（8月）
- ⑦ コーンズ・モータース（株）「フェラーリ研修」（1月）

・クラブ活動

- ① 野球部～令和5年度「全国大会出場ベスト8」

- ②ソーラーカークラブ～令和5年度「ワールド・ソーラーカー・ラリー」（秋田県大潟村）エンジョイ・クラス第2位
- ③ボランティアクラブ～地域の里山での自然保護活動、災害地での諸活動

(4) 学修成果

・就職率が目標通り達成できているか	④	3	2	1
・校内進学が目標通り達成できているか	4	③	2	1
・留年・退学が低減できているか	4	③	2	1
・資格・検定取得が目標通り達成できているか	④	3	2	1
・卒業生の活躍・実績等を在校生の教育に生かしているか	4	③	2	1

①課 題

- ア. 一級自動車整備科への進学希望が増加傾向にあるものの年度によって増減が見られることからさらなる努力が求められている。自動車車体整備科、カスタマイズ科への進学についても同様の傾向が見られることから一層の努力が求められている。
- イ. 留年・退学の防止については全職員が一丸となって取り組み、着実に相応の結果を出しているが、保護者の経済的理由や学生の進路変更などにより「退学者ゼロ」には至っていない。

②今後の改善方策

- ア. 引き続き高校訪問やオープンキャンパス等で「一級」・「車体」・「カスタマイズ」の魅力・優位性などを発信していく。特にオープンキャンパス・見学会において全職員が参加高校生・保護者へ丁寧に校内進学の有利性等の説明を行い、その価値、将来性などについてより丁寧な説明を行う。
- イ. 入学前のオープンキャンパス・学校説明会等で自動車整備士の魅力、将来性、各種奨学金制度について入念な説明を行っているが、さらなる充実に努める。入学後は学生一人ひとりの能力・個性を理解しきめ細かな学習指導、生活指導、教育相談を充実させるとともに、奨学金制度の周知・活用を促し退学者ゼロを目指す。

③特記事項

- ・就職率は100%を達成。これは開校以来、各企業との信頼・協力関係のもとずっと継続しているものである。
- ・教職員の教育相談の力量を向上させるため毎年、専門家による「カウンセリング研修」を実施している。
- ・資格取得については常に100%合格を目指し職員一丸となって取り組んでいる。「一級」については「筆記試験」と「口述試験」（卒業後に実施。令和5年度は令和6年5月12日実施）があり、長期にわたって一人ひとりの能力・学習状況等を踏まえたきめ細かな指導により100%の合格率であった。（全体の合格率は57.1%）。今後とも100%合格を目指しJAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）会員校との情報交換やグループ校である東京自動車大学校との対策会議を継続的に実施していく。

(5) 学生支援

・進路に関する支援体制が整備されているか	4	3	2	1
・学生相談に関する体制が整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制が整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理に関する体制が整備されているか	4	3	2	1
・保護者との連携は適切に行われているか	4	3	2	1
・PTA 活動が適切に行われているか	4	3	2	1
・同窓会活動が適切に行われているか	4	3	2	1
・企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課 題

ア. 近年、指摘されることの多い「多様化している若い人たち」と同様、本校においても「多様化している」学生は少なくない。彼らの精神的な問題や悩み、学習、健康管理等に関して担任・学年等がその相談・指導に努めているが、さらなる充実が望まれている。

イ. 卒業生の多くが各所で活躍しており、同窓会として卒業生（同窓生）・在校生のコミュニケーションの機会の設定が一層求められている。

②今後の改善方策

ア. 学生一人ひとりの課題（学習、人間関係、健康管理など）に応じた相談体制を確立する。

そのため引き続き教職員のカウンセリング研修を通じて職員の教育相談・カウンセリング等の指導力の向上を継続的に図っていく。また、医療機関と連携して健康診断結果を踏まえた健康管理指導を充実させるとともに、「健康増進法の一部を改正する法律」を踏まえて受動喫煙による健康被害についても学生への指導を一層強化していく。

イ. 卒業生・在校生の情報交換会、卒業生による実技指導・講話の実施を図る。又、企業から貸与されている教材車両等を積極的に授業に取り入れていく。

ウ. 創立より約 12,000 名の卒業生を輩出しており、同窓生情報のデータベース化や総会の開催など、いわゆる同窓生のコミュニティの構築を検討する。

③特記事項

・PTA との連携

①総会（6月）～多くの会員が出席。

②個別面談会～8月6日（火）～8月8日（木）の三日間で実施予定。

・同窓会との連携

以下の日程で役員会・連絡会を開催し情報交換・協議等に努め学校運営に理解・協力をいただく。

①役員会～6月6日（木）開催。10月11日（金）の連絡会は役員会との交流会とすることを決定。

・企業との連携（キャリア教育・職業教育）

①インターンシップの実施

一級自動車整備科 4 年生が約 1 ヶ月間、企業等の現場で研修。

②企業と連携した実習授業・講習会等の実施（前出）

第一線の現場で活躍している企業の方によるキャリア教育。

・本年 5 月より、スクールカウンセラーによる月 2 回のカウンセリングを導入した。

(6) 教育環境

- ・施設・設備が教育上、必要かつ十分対応できるよう整備されているか (4) 3 2 1
- ・施設・設備が安全管理・防災上、適切に整備されているか (4) 3 2 1
- ・校内の清掃・美化が適切に行われているか (4) 3 2 1

①課 題

ア. 常に学校の目指す教育目標達成のため、実習車の更新、施設・設備の点検・改修等のハード面の充実に努めているが、今後、老朽化による施設・設備の不具合等を考慮の上、計画的に対応していくことが求められている。また、安全確保・防災面の視点からも環境の整理・整頓、美化が絶えず求められている。

②今後の改善方策

ア. 引き続き教育活動の充実・振興計画と併せて実習車の更新・導入、施設・設備の点検・改修・美化等の充実に努めるとともに、常に安全確保・防災に向けての長期的かつ優先的な計画立案に基づき検討を進めていく。

③特記事項

・「健康増進法の一部を改正する法律」（平成 30 年 7 月 25 日）により第一種施設として「敷地内禁煙」（令和元年 7 月 1 日施行）となったことを受けて「特定屋外喫煙場所」を設置している。学生・職員・外来者の理解のもと引き続き適切に運営していく。

(7) 学生の受入れ募集

- ・高等学校等への情報提供は適切に行われているか (4) 3 2 1
- ・学生の募集活動は適正に行われているか (4) 3 2 1
- ・学生納付金は妥当なものになっているか (4) 3 2 1

①課 題

ア. 長年にわたり継続的に高校訪問を行い情報提供及び担当教職員との信頼関係づくりに努め成果を上げてきているが、他校にはない本校の優れた教育内容・特色が高校生に十分伝わっていない面も見られ募集定員の確保に至っていない。

イ. 学生納付金については、昨今の物価上昇を反映できていない状況にあるが、保護者の経済的負担を鑑みれば簡単には引き上げられない状況にある。

②今後の改善方策

ア. 今後とも高校の教職員・生徒、保護者等にとってわかりやすい魅力的な広報資料（SNS 等

- の映像媒体も含め)の作成やオンラインによる情報提供など時宜を得た提供を図っていく。
- イ. 当面は学習環境に影響のない範囲で電力エネルギー等の節約できる範囲を見直して、収支改善を図っていく。
- ウ. 進路部を主として、採用企業に積極的に企業奨学金、社員枠制度の情報を提供し各企業の採用枠拡大を図る。

③特記事項

- ・国際メカニック科は外国人留学生を対象とした3年制の二級自動車整備士養成課程であり、開設当時は日本語能力が懸念されたがこれまでのところ特に問題はない。県内、県外を問わず日本語学校が非常に協力的であり企業の採用状況も良好である。

(8) 地域との連携

- | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|
| ・市や区・町等と連携した活動を行っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・警察、消防署等と連携した活動を行っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・地元高校・大学・企業等と連携した活動を行っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

①課 題

ア. 地元の市・区との連携、警察署・消防署との連携は通常適切に行われており、また高校、大学、企業との連携も強化されてきている。今後は広い意味で地域社会との連携活動が求められている。

②今後の改善方策

ア. 学生のクラブ活動としてボランティアクラブが発足して11年目となる。これまで東日本大震災等の被災地での活動の他、地域の里山整備を行っているボランティアクラブとの連携活動も行ってきた。また、校舎周辺の道路等の清掃美化活動を適宜実施している。今後ともこうした地域に根ざした活動をさらに推進していく。

③特記事項

- ・ぐんまハイスクールロックフェスの開催
映画「グリモン」の中に出てくるライブハウスでのロックコンサート。そのシーンを撮影するため多くの高校軽音楽部の協力をいただく。その後、関係者の要望を受けて平成27年10月に初めて開催。これまで全県的な規模での高校生のロック・軽音楽の発表の場がなかったことから多くの高校が参加。以来、部活動として参加できる質の高いフェスティバルとして高く評価され高校生の音楽活動の発表の場、その目標の一つとして定着。令和5年度は15校26バンドが出場。今年度は動画による予選を経て8月20日(日)伊勢崎市境総合文化センターで本選大会を開催予定。
- ・毎年、高校より依頼があり文化祭や授業実施に協力(スーパーカー使用など)。
- ・伊勢崎警察署による「交通講話」実施(6月)
- ・国土交通省群馬運輸支局による出前講座実施(6月)
- ・日本赤十字社群馬県支部「救急法基礎講習会」(6月)
- ・オープンキャンパスでメーカー・ディーラーによる特別レクチャー実施

- ・オープンキャンパスの一環としてディーラー見学実施
- ・群馬大学副学長（理工学部大学院教授）による「環境」の授業実施（年2回）
- ・地元企業と連携した実習授業・講習会等（前述）の実施

(9) 法令等の遵守

- ・関係法令の遵守と適切な運営がなされているか 4 (3) 2 1
- ・個人情報に関しその保護のための対策がとられているか 4 (3) 2 1
- ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか (4) 3 2 1

①課 題

ア. 全職員が法令遵守の徹底に努めている。また個人情報を適切に保護するための共通理解に基づく取り組みを行っており、今後とも社会情勢の変化に応じて高い意識の保持・向上が求められている。

②今後の改善方策

ア. 引き続き日常的に各種会議や打合せ等を通じて法令遵守・個人情報保護についての見識を深め共有化の徹底を図っていく。

③特記事項

- ・国土交通省「不正改造防止」の出前講座・車両検査を実施。
- ・伊勢崎警察署による「交通講話」で法令遵守指導を実施（6月）
- ・東京入国管理局（留学審査部門）から「在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関」（適正校）として選定されている（平成29年～）。
- ・文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価を実施し、併せて文部科学省「職業実践専門課程」認定要件である学校関係者評価も実施している。（自己評価委員会、学校関係者評価委員会、それぞれ年間2回開催）

(10) 財務

- ・中長期的に財務基盤が安定しているか (4) 3 2 1
- ・予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなっているか 4 (3) 2 1
- ・会計監査が適正に行われているか (4) 3 2 1
- ・財務の情報公開体制が整備されているか (4) 3 2 1

①課 題

- ・なし

②今後の改善方策

- ・なし

③特記事項

- ・学校法人として監査法人の会計士事務所の監査を受け「適正」の評価をいただいている。また

- 理事会・評議員会において報告・承認されている。
- 財務の情報公開についてはホームページに公開している。

(11) 社会貢献・地域貢献

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか (4) 3 2 1
- ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか (4) 3 2 1

①課 題

- ・なし

②今後の改善方策

- ・なし

③特記事項

- ・実習場・教室等の施設設備の使用提供（群馬県自動車車体整備協同組合の講習会等）
- ・サッカー場の使用提供（地域の少年サッカーチーム、高校サッカー部等）
- ・高校の文化祭・授業に協力（スーパーカー使用、実習授業の実施など）
- ・群馬県赤十字血液センター「献血」に協力（年2回本校で実施）～毎回、学生・職員100名以上が協力 ※平成27年度群馬県献血功労者表彰「厚生労働大臣表彰」～20年以上にわたり組織的に献血（1,176団体・個人の中で唯一「厚生労働大臣表彰」）。
- ・ボランティアクラブの活動
これまで大きな災害に見舞われた各地に赴きボランティア活動に取り組んできており、現在、日常的な活動としては以下の通り。
 - ①地元「里山クラブ」との里山整備活動
 - ②学校周辺の清掃美化活動
 - ・実習場・教室等の施設・設備の使用提供を行っている。
 - ・サッカー場の使用提供を行っている。（地域の少年サッカーチーム、高校サッカー部等）

5 重点目標達成についての評価及び総合的な評価結果

(1) 募集定員及び内部進学者の確保

国で行う各種統計・調査により出生数は年々減少し、日本の人口減少は加速の一途をたどっていることは周知のとおりである。このことは、就業年齢層の高齢化や慢性的な人材不足を招き、優秀な人材を自動車整備業界に送り出すという自動車整備士養成校の使命に影響を及ぼす結果となっている。

本校の所在地である群馬県においては、平成 16 年をピークに人口が減少に転じ、平成 24 年から 200 万人を下回る状況が続いており、令和 5 年度では人口増減率が -0.65% となっている。

こうした状況を踏まえて群馬県教育委員会では高等学校の再編整備を進めてきており、令和 7 年 4 月には、沼田高校と沼田女子高校が統合して開校予定となっている。

このような傾向は首都圏を除く他の県においても概ね同様であり、専門学校、短大、大学等のいわゆる「高等教育機関」の多くがそうであるように、自動車整備士養成校も入学者確保に苦戦を強いられている。自動車整備士の人材不足が長期的に見込まれる状況下、国（国土交通省）においては、国民の安全・安心を守り我が国の産業経済を支える物流を円滑に進めるため、平成 26 年度から全国一斉に各運輸支局長の高校訪問を実施し自動車整備士のニーズ・魅力等の PR に努めてきている。

今後も少子化や「若者の車離れ」、円安が進むなかでの物価高、慢性的な人材不足、更には「カーボンニュートラル」・自動運転を踏まえた自動車技術の高度化・特殊化、高校生の進路選択の変容など、不安定かつ複合的・流動的な社会の変化が進行していくと思われるが、そうした中であって、国民の自動車の保有台数の推移や産業界・国土交通省の自動車整備士不足の危機意識・対応等を背景に、職業としてのニーズ・魅力を明示しながら入学者確保のための組織を挙げての取組（広報活動の対象地域・高校の拡充・重点化、施設設備の拡充、スーパーカーや電気自動車・燃料電池車等の魅力ある車両の導入、参加者の心をとらえるオープンキャンパスの改善・充実（高校生が親しみやすい在学生たちをサポートとして活用すること等））を強化していくことが引き続き求められている。

本校では 9 年前、自動車整備士不足の解消をねらった公益性や地域づくり・地域貢献の視点に基づき、「まち映画」というコンセプトのもと映画「グリモン（グリースモンキーの略で欧米での自動車整備士の愛称）～ドリーム・オブ・フライングカー～」を制作・公開した。この映画的一幕「高校生のロックコンサート」では多くの高等学校軽音楽部の協力をいただいたき、このことをきっかけとして「ぐんまハイスクールロックフェス」を開催したところ盛会裡に終わることができた。この種の全県的規模による高校生イベントはこれまでなかっただけに、本校の名を高校関係者等に広く周知することができた。以降、新型コロナウイルスの感染状況の影響で一時的に中止を余儀なくされたものの毎年開催され、今年度は 7 月予選会を経て本選大会を 8 月 17 日（土）伊勢崎市境総合文化センターで開催予定である。

また、平成 28 年に開設した国際メカニック科においても募集定員確保のための取組を推進している。本科は平成 20 年 7 月に国が策定・発表した「留学生 30 万人計画」を背景にアジア諸国からの留学生が増大している中、その受入れ及び就職支援、更には母国へ帰国してからの起業等という国際貢献・国際交流、本校の国際化等の視点から開設したものである。開設初年度は先進校の視察や情報収集等により少人数ながら予定通りのスタートを切ることができた。アジア諸国か

らの留学生は母国での急速な自動車産業の発展を踏まえて自動車整備士に対して高い興味・関心を持っており、また、これまでの日本語学校との信頼関係、協力関係を背景に定員を上回る出願状況が続いていたことから開設 5 年目に当たる令和 2 年度に定員を 40 名から 80 名へと増員した。令和 3 年度には新型コロナウイルスの影響が懸念されたが最終的には定員を上回る出願者があったものの、新型コロナウイルスの影響が徐々に顕在化する中、令和 4 年度及び令和 5 年度の入学者は激減した。その後、令和 6 年度には新型コロナウイルスの影響もなくなり再び定員を上回る出願状況となり現在に至る。本校としては引き続き自動車整備士を目指す留学生を多数受け入れ、彼らの高い志に添った「資格取得・就職」という目標が達成されるよう一層の努力が求められていると言えよう。

本校は平成 29 年から「留学生の在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関(適正校)」(東京入国管理局)として継続認定されており、今後も引き続き適切な運営に努めていく。

校内進学者の確保・増加についても高い目標を掲げその達成に努めてきている。現在、一級自動車整備科への進学は一定程度見込まれる状況となっておりさらなる工夫・努力を重ねていきたい。昨今の自動車整備業界の動向を鑑みると、二級資格で終了するのではなく一級資格を取得し併せて四年制大学卒業資格を取得する(本校は産業能率大学と提携しており一級自動車整備科の学生は全員「大卒」資格が取得できる)ことによって、「大卒メカニック」として技術者・職業人としての高い評価・待遇につながっていくことは自明の理であり、多くの企業において一級自動車整備士課程の卒業生をより高待遇で採用している実績がこのことを証明している。これらのことを入学前のオープンキャンパスや入学ガイダンス等でこれまで以上に丁寧に説明するなど、高校生・学生・保護者への働きかけを継続的に強化していく。「一級」学生を増加させることは学校経営上、大変重要なことであり、またそのことが自動車整備士養成校の社会的評価の目安となることは明らかである。

また、自動車整備技術に加え板金・塗装の技術も高め、思い描いたボディ造形に取り組む車体整備科・カスタマイズ科においても、その変わらぬ人気、企業のニーズ等を背景にこれまで以上に進学者の増加に向けてオープンキャンパスでの体験実習や高等学校での実習授業に展開して積極的・重点的に情報発信に取り組んでいく。(カスタマイズ科の卒業生は「一級」と同様、「大卒」資格も取得することが可能。)

(2) 就職率の向上

令和 5 年度においても就職内定率 100%を達成できた。この「就職達成率 100%」は本校が開校以来、一貫して追い求めてきた目標である。この目標は、進路部を中心とした学生一人ひとりのきめ細かな適性評価・書類作成・面接等の指導、各担任等が精力的・日常的に行っているあいさつ・礼儀指導、基礎的な知識・技術指導、一日一社の企業説明会の実施、企業の意見・要望等の積極的な聴取を踏まえた速やかな対応などにより、開校以来ずっと達成してきているものである。各企業は自動車整備士が不足している中であっても「資格があれば誰でも採用する」のではなく知識・技術はもちろんのこと、あいさつ・礼儀・社会性・コミュニケーション能力等に優れた人材を求めている。本校が教育理念に掲げ一貫して取り組んできたこれらの教育指導が評価されてきた結果でもある。今後ともこの状況を継続すべく各組織間の連携を強化していく。また、「就職 100%達成」に甘んじることなく、第一希望企業の初回受験合格を一層高めていく。更に、就職後の定着・活躍(離職率は他に比して極めて低いものであるが)を継続的に維持していくため、内

定後の学生一人ひとりの意識の維持・向上、確実な技術・知識の習得を推進していくとともに、トップセールスマンによる「営業もできる整備士」養成のための授業なども適宜実施していく。

(3) 資格取得率の向上

「就職率の向上」と「資格取得率の向上」とは専門学校においては生命線である。高校生が選択する専門学校は「資格が取れる学校」であり「就職できる学校」だからである。また、社会的評価を得る大きな目安でもある。

本校では前述のとおり就職率の100%達成と併せて、「資格取得率100%達成」を全職員の合言葉として日々の教育活動に取り組んできている。

令和5年度も前年度に引き続き二級自動車整備科、自動車車体整備科、国際メカニック科の全科において合格率100%を達成することができた。

入学時の学力や学習意欲、将来の進路意識等、多様化している学生に時間をかけ丁寧にきめ細かく指導し自らの変容を促し成長を図ってきたことの成果と言えよう。そのことが専門学校としての実践的な職業教育・キャリア教育の使命であり、今後も引き続き重点的に取り組んでいく。

一方、一級自動車整備科においては学科試験において筆記試験のみならず口述試験が課せられており他の自動車整備士試験よりも合格難度が高く設定されているが、こちらも前年度に続き合格率100%を達成することができた。このことは、常に学校の重点目標として全職員が力を合わせて指導内容・方法の改善に努めるとともに個に応じたきめ細かな指導の成果であると言えよう。

今後とも100%合格を目指していくために、担任を中心として多数の職員が協力し合って長期にわたり一人ひとりの学習到達度状況を正確に把握しながら、その状況に応じて個別に相談・激励・指導を取り入れながら取り組んでいく必要がある。一級の「合格者数」・「合格率」は言うまでもなく自動車整備士養成校の社会的評価の大きな目安である。常に学校あげてその充実・向上を図っていくことが、創立57年目を迎えた伝統校としての、またJAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）会員校としての本校の社会的使命であると言えよう。

引き続きJAMCA（全国自動車大学校・整備専門学校協会）やグループ校である東京自動車大学校との情報交換、対策会議での意見・アイデア等を活用するとともに、企業と連携した実習授業や本県カウンセリング指導の第一人者の方による教職員研修などをおして、学生一人ひとりの学力に応じた学習・資格取得指導、精神的な内面指導等、重点的に取り組んでいく。また、企業による内定後及び就職後の研修を踏まえ、就職・キャリア意識の向上とともに一人ひとりの受験に臨む高い意識の維持・向上に向けてこれまで以上に企業との連携を強化していく。

最終的に目指すものは国家試験100%合格である。